

県指定無形民俗文化財

茶わんまつり

日時：平成21年5月4日（月）祝日 10：00～ 雨天順延
場所：余呉町丹生神社周辺（メイン会場は茶わん祭りの館周辺）

祭りの起源

その昔、末遠（余呉町橋本）という所に陶器をつくる陶工がいて、その技を神から授けられた報恩感謝の意味から、丹生神社に陶器を奉納したのがはじまりといわれています。地域の古文書等によれば、室町時代から行われていたのではないかと考えられています。また、丹生神社の由緒書によれば、永暦年間（1160年）には既に盛大に行われていたと記されています。

祭りの見どころ

●観客を魅了する山車飾り

山車を飾る技術は、三基の山車（寿宝山、永宝山、丹宝山）を作る計9人の山作りたちのみに代々伝わる門外不出の技です。身を清めた山作りたちが丹精込めて、三ヶ月もの月日をかけて作り上げます。飾り作りは誰にも見せず、芸題すら知らされません。

また、山車の組立てには金物やロープ等を一切使わず、山からとってきた「藤つる」をねり合わせて縄やロープの代わりにして作られています。そして、この山車の飾りに『茶わん』が使われています。



山車飾りの芸題は、主に歌舞伎や戦記物、伝記伝説などの物語からとっています。山車飾りは、物語にゆかりのある置物、建具、武具、道具、花鳥風物を巧みに組み合わせて作られ、その高さは10mにも及びます。

山車飾りは巡行の間、竹竿の支柱で支えられていますが、八幡神社到着後にはずされます。高々と積み上げられた飾りが風にゆらゆらと揺れ、倒れ落ちそうで倒れ落ちない姿に、観客から歓声があがります。実際にご覧になって下さい。

山車の周りには、古来からの宝物として保存してきた『見送幕』と『水引幕』を飾りつけています。この幕は、京都祇園祭り、飛騨高山祭りに匹敵するほどの見事さです。

水引幕：寛文二年（1662年）、延宝元年（1673年）、安永五年（1776年）に購入

見送幕：寛文十一年（1671年）、寛文十二年（1672年）、享保三年（1718年）に購入

●**伝統の調べ「しゃぎり」**

山車の上で美しい調べを奏でる『しゃぎり』は、お祭りには欠かせない存在です。笛、太鼓、鉦かねで構成され、祭囃子ばやしとして丹生の里に親しまれています。このしゃぎりは、父から子へ、子から孫へと代々受け継がれてきたものです。

●**「花奴」の花傘踊り**

『花傘踊り』では、頭に豆絞りの手拭いを被り、長襦袢ながじゅばんにわらじ履き姿で花傘を手にした約15人の若者が練り踊ります。その姿は壮観で、渡御道中とぎよどうちゆうの花形です。



●**中世の面影を今に残す「稚児の舞」と「十二の役」**

中世の面影を今にとどめている「稚児の舞」と「十二の役」は、他の祭りではあまり見られないもので、滋賀県下ではこの茶わん祭りだけです。

「稚児の舞」では、棒と笹みこを持つ「神子の舞」、鈴と御幣ごへいを持つ「鈴の舞」、扇と御幣ごへいを持つ「扇の舞」をはじめとする舞を披露します。

舞の拍子方である「十二の役」は、小太鼓、大太鼓、鉦叩き、鼓打ち、ささら擦り、棒振りからなります。中でも、棒振りは他地方の祭りには見られません。



写真提供：(独)水資源機構 丹生ダム建設所

【公共交通機関】

JR北陸本線 余呉駅 → (株)余呉バス (臨時便で30分に2本程度) → 橋本で下車

◎ (株)余呉バス (臨時便) 運行表

【JR 余呉駅 → 橋本】

JR 余呉 駅 (発)	9:05	9:30	10:15	10:40	11:40	12:14	12:48
↓ ウッディパル	9:12	9:37	10:22	10:47	11:47	12:21	12:55
橋 本 (着)	9:17	9:42	10:27	10:52	11:52	12:26	13:00

【橋本 → JR 余呉駅】

橋 本 (発)	13:00	13:52	14:16	14:40	15:14	15:38	16:02
↓ ウッディパル	13:05	13:57	14:21	14:45	15:19	15:43	16:07
JR 余呉 駅 (着)	13:12	14:04	14:28	14:52	15:26	15:50	16:14

【上丹生 浅井恒男氏HP】 <http://www.biwa.ne.jp/azai>

【余呉町役場】 <http://www.town.yogo.lg.jp/>

【由来等の詳細情報】 <http://www.water.go.jp/kansai/niu> (トップページの新着情報)